

医療とコミュニケーション（前期）

責任者・コーディネーター	人間科学科文学分野 平林 香織 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科文学分野、神経科学講座		
担当教員	平林 香織 教授、駒野 宏人 教授、平野 順子 非常勤講師、久保田 美恵子 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

医療人にとって必要な情報伝達の数々について学ぶ。あらゆるコミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」の多様性について知り、障がいを持った人々との情報交換の有り方も含め医療現場に必要なコミュニケーションの種類とその心構えについて理解できるようにする。情報を集め、それを分類・理解してしっかりと受け止め、そして、正しく発信するための基本的なことがらを学習する。論理的にわかりやすい表現で自分の考えを伝えるための技術を修得する。また、上級学年において医療面接の手法を学んでいくための準備として、コーチングという対話の仕方について理解を深める。さらに、脳の情報伝達経路と筋肉反射の関係を体感するためのエクササイズを行う。

・教育成果（アウトカム）

コミュニケーションの多様性と可能性の実態に関する講義内容を整理し、医療人にとって必要なコミュニケーションの種類とそれぞれのコミュニケーションの仕方の留意点を認識する。さまざまなコミュニケーションを実際に行うことによって、コミュニケーションの仕方の違いによる情報伝達内容の変化を認知し、わかりやすく論理的な表現を習慣化する。

・到達目標（SBO）

- 1、「みること」と「きくこと」の種類とそれぞれの違いを説明することができる。
- 2、医療人にとって必要なコミュニケーションについて基本的なことがらを説明することができる。
- 3、正しくわかりやすく情報を伝達することができる。
- 4、論理的な日本語表現で自分の考えを述べるができる。
- 5、相手の自己肯定感を上げるコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができる。
- 6、障がい者のコミュニケーションの実態について理解することができる。

・ 講義日程

(矢) 西 101 1-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/16	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	みることと情報伝達
4/23	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	きくことと情報伝達
4/30	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	日本語による情報伝達
5/7	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	正確な情報伝達
5/14	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	論理的な情報伝達
5/21	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 平野 順子 非常勤講師	コーチング1：コーチングの概要
5/28	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 平野 順子 非常勤講師	コーチング2：相手の話を聴く姿勢
6/4	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 平野 順子 非常勤講師	コーチング3：相手を認めるメッセージ
6/11	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 平野 順子 非常勤講師	コーチング4：相手の答えを引き出す質問
6/18	木	2	人間科学科 文学分野 神経科学講座	平林 香織 教授 駒野 宏人 教授	脳とからだの情報伝達 1
6/25	木	2	人間科学科 文学分野 神経科学講座	平林 香織 教授 駒野 宏人 教授	脳とからだの情報伝達 2
7/2	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 久保田 美恵子 非常勤講師	手話1：聴覚障害者のコミュニケーションの実態と手話の構造
7/9	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 久保田 美恵子 非常勤講師	手話2：手話によるコミュニケーションのポイント
7/16	木	2	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 久保田 美恵子 非常勤講師	手話3：手話による意思疎通の実態

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	日本語表現法改訂版 21 世紀を生きる社会人のたしなみ	庄司達也・山岸郁子ほか	翰林書房	2014
参	はじめての手話改訂版	木村晴美・市田泰弘	生活書院	2014
推	〈文法が基礎からわかる〉日本手話のしくみ	岡典栄・赤堀仁美	大修館書店	2011

・成績評価方法

受講態度（20%）、課題への取組（30%）、レポート（50%）によって総合的に評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・特記事項・その他

グループワークを中心とした実践的な科目なので受講者の上限を 50 名程度とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 P C	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	D V D プレーヤー	1	講義資料の提示